

【例題 1】

小児の薬物療法として正しい選択肢はどれか。1 つ選べ。

- A. 喘息急性期治療目的でデカドロン 0.6 mg/kg 投与を計画し、体重 50 kg の中学生に 30 mg 内服させた。
- B. 熱性けいれんを頻回に起こしている生後 8 ヶ月の乳児喘息発作にテオフィリン製剤を処方した。
- C. シロップしか飲めないという体重 15 kg のクループの患者にデカドロン 0.3 mg/kg の投与を計画し、エリキシル製剤 0.01 % を投与した。
- D. 内服より静脈注射の方が確実なのでエリスロマイシンは点滴投与すべきである。
- E. 抗菌薬の選択は、感染巣、予想される起炎菌、その起炎菌に対する抗菌薬感受性のプロファイル等を参考にする。

正解：E

【例題 2】

食道癌に関する以下の記述で誤っているものはどれか。1 つ選べ。

- A. 本邦の食道癌は男性に多い。
- B. 無症状であれば進行食道癌の可能性はほとんど無い。
- C. 本邦の食道癌では扁平上皮癌が多い。
- D. 頭頸部癌と食道癌は重複しやすい。
- E. 飲酒と喫煙が食道癌の発生に大きく関わっている。

正解：B